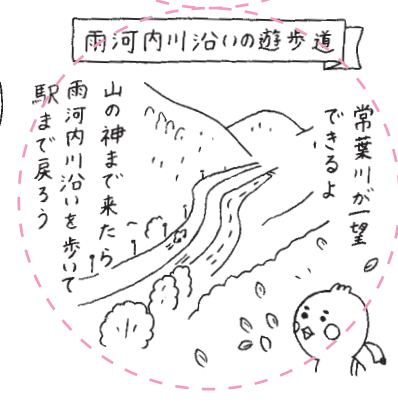
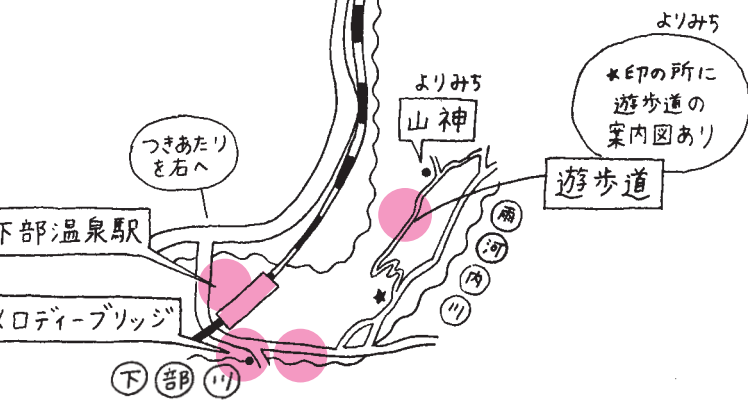
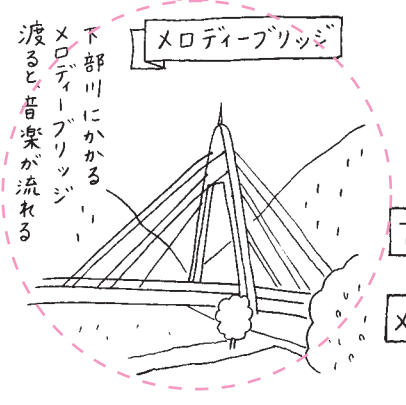
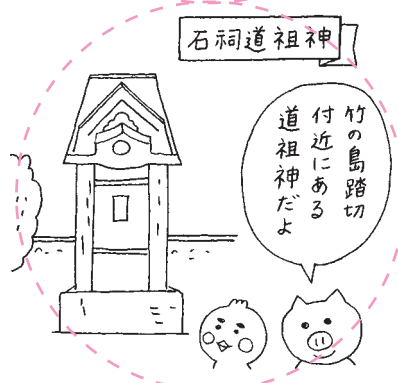
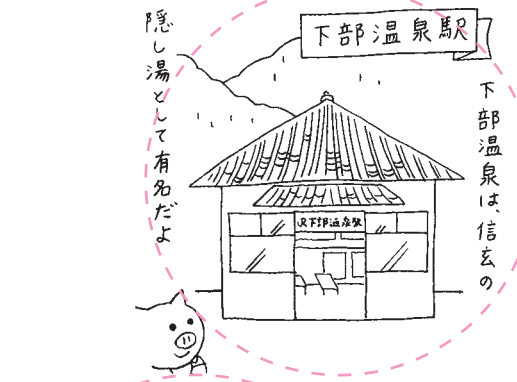
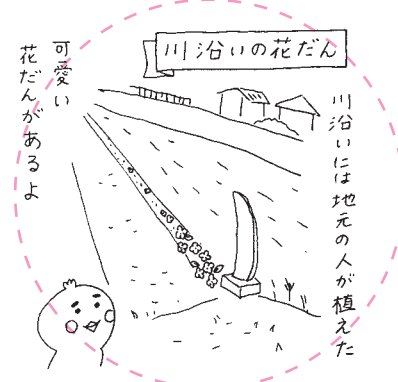
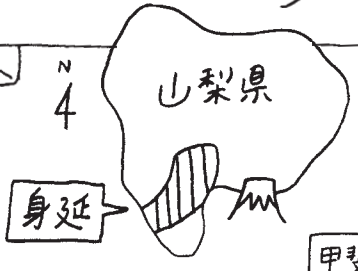
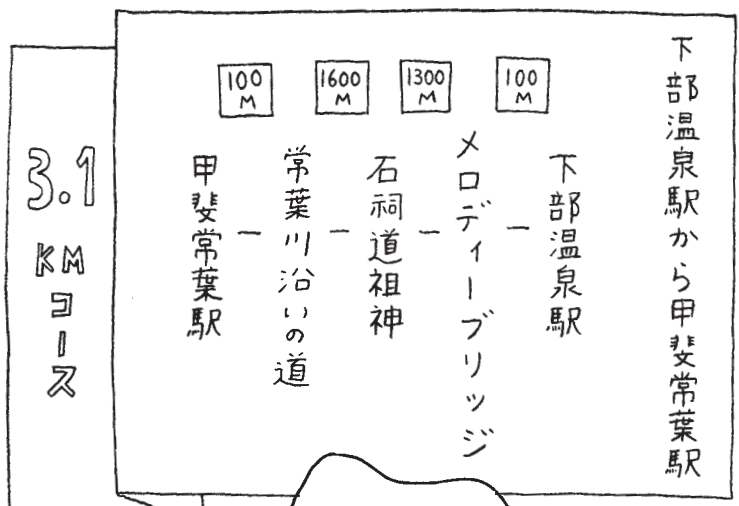


馬甲司
JRみのぶ線
フットパスマップ
みのぶらり
下部温泉駅→甲斐常葉駅
3.1kmコース

05





金六は、役所を三日で辞めたあと転々と職を変えながら、次第に人望を集め、明治十五年（一八八二）東京機械製造株式会社を創立し、取締り役に就任します。



それから鉄道、石油、銀行、製糸など多角的な分野で事業をおこし、全国にその名をとどろかせます。



明治四十二（一九〇九）年、久遠寺の日慈上人は東海道線の車中、偶然金六と出会います。



日慈上人と出会った翌年、金六は、政府から鉄道の敷設許可をとりつけ、地元財界人と明治四十五（一九一三）年富士身延鉄道株式会社の創立をします。



富士身延間の工事も終わり、次は身延甲府までの第二計画。



しかし政府からの許可が下りず、金六は許可要請に奔走しますが、大正十二（一九二三）年三月、七十一歳の生涯を夢なかばにしてとじます。

しかしその翌年許可があり、二代目社長堀内良平が工事に着手し、昭和三（一九二八）年ついに全線開通します。実に十七年の月日が経っていました。



ちなみに萑崎には金六の生家の一部と顕彰碑があります。



身延線沿線を 小野金六の一生に思いをはせながら歩いてみてはいかがですか？

